

TECHNICAL DATA

仕上りの種類	可とう形ポリマーセメント系改修用仕上塗材 (可とう形改修塗材CE)仕上り
製品名	リカバリー

中塗材： 1液水系低炭素対応型アクリルシリコン樹脂塗料
「水系ファインコートフッ素 中塗 BMB」

上塗材： 2液水系低炭素対応型無機有機ハイブリッドフッ素樹脂塗料
「水系ファインコートフッ素DX BMB」

第1版 作成日： 2024年4月1日



菊水化学工業株式会社

公共建築改修工事施工仕様書

1. 仕上げの種類

可とう形ポリマーセメント系改修用仕上塗材(可とう形改修塗材CE)仕上げ

2. 製品名

リカバリー

中塗材：1液水系低炭素対応型アクリルシリコン樹脂塗料「水系ファインコートフッ素 中塗 BMB」

上塗材：2液水系低炭素対応型無機有機ハイブリッドふっ素樹脂塗料

「水系ファインコートフッ素DX BMB」

3. 適用範囲

既存の仕上塗材塗り仕上げ等を改修する場合及びコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合に適用し、その他の下地に適用する場合は特記による。

4. 材料

主 材：リカバリー

[基材] NET 15kg/缶入

[硬化剤] NET 3.6kg/袋入

中塗材：水系ファインコートフッ素 中塗 BMB

NET 15kg/缶入

上塗材：水系ファインコートフッ素DX BMB

[主材] NET 15kg/缶入

[硬化剤] NET 0.5kg/缶入

5. 下地

5.1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.5.4既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整に準ずる。

5.2 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.5.5既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整に準ずる。

(7) コンクリート面の下地調整は、次による。

(a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(b) 下地面の清掃を行う。

(c) 下地調整塗材C-2を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面及び厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(d) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。

(e) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗付ける。

(イ) モルタル、プラスター及びプレキャストコンクリート面の下地調整は、次による。

(a) 下地面の清掃を行う。

(b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用する場合は、省略することができる。

(ウ) ALCパネル面の下地調整は、次による。

(a) 下地面の清掃を行う。

(b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。

(c) 仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。

(イ) 押出成形セメント板面の下地調整は、次による。

(a) 下地面の清掃を行う。

(b) 日本建築学会材料規格JASS 18 M-201 [反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー] に基づく塗料を全面に塗り付ける。

なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材をJASS 18 M-201に基づく塗料で、代用することができる。

表 下地調整に使用する下地調整塗材及びシーラー

下地	下地調整材及びシーラー	菊水化学工業(株)該当製品名	備考
コンクリート	下地調整塗材 C-1	キクスイ フィラー キクスイ フィラー 1材型 キクスイ カチオンフィラー吹付用 カチオンRF JSプレミックス10 JSプレミックスカチオン100RF	下地調整塗材を塗付後に、仕上塗材の下塗材を必ず塗布すること
	下地調整塗材 C-2	BR#15 BR-Dコテ カチコテSP カチオンRF JSプレミックスカチオン100 JSプレミックスカチオン100RF	同上
	下地調整塗材 CM-2	BR-CM JSプレミックス20 JSプレミックス30 JSプレミックス60H	同上
モルタル、プラスター	仕上塗材の下塗材で代用	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	仕上塗材の下塗材省略可
プレキャストコンクリート	仕上塗材の下塗材で代用	キクスイ プライマー EPW キクスイ SP パワーシーラー	仕上塗材の下塗材省略可
せっこうボード、 その他ボード	合成樹脂エマルジョンシーラー	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	—
ALCパネル	合成樹脂エマルジョンシーラー	キクスイ プライマー スーパーE キクスイ プライマー スーパーWE	下地調整塗材Eで代用する場合は省略可
	下地調整塗材 C-1	キクスイ フィラー キクスイ フィラー 1材型 キクスイ カチオンフィラー吹付用 カチオンRF JSプレミックス10 JSプレミックスカチオン100RF	下地調整塗材を塗付後に、仕上塗材の下塗材を必ず塗布すること
	下地調整塗材 E	キクスイ ファンデ	—
押出成形セメント板	反応形合成樹脂シーラーおよび 弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	キクスイ プライマー EPW キクスイ SP パワーシーラー	仕上塗材の下塗材省略可

6. 工程

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間(h) (23°C 50%RH)	所要量 (kg/m ²)
主材塗り	さざ波状 (ローラー) の場合 リカバリー 基材：15kg 硬化剤：3.6kg 清水：0~0.7L	多孔質ローラー	1	16以上	0.8以上
	ゆず肌状 (吹付け) の場合 リカバリー 基材：15kg 硬化剤：3.6kg 清水：0.7~1.2L	リシンガン 口径：4~6mm 吹圧：0.5~0.6MPa	1	16以上	0.8以上
中塗り	水系ファインコートフッ素 中塗 BMB 主材：15kg 清水：0.4~0.8L	はけ・ウールローラー エアレスプレー等	1	3以上	0.13以上
上塗り	水系ファインコートフッ素DX BMB 主材：15kg 硬化剤：0.5kg 清水：0.4~0.8L	はけ・ウールローラー エアレスプレー等	1	-	0.13以上

7. 工法

7.1 材料の練混ぜ

- (1) 主材は基材に硬化剤を入れ、まま粉ができないようミキサーで混ぜながら徐々に加える。
定められた模様に対する所定の粘度に調整するよう清水を加え均一にする。

<注意事項>

- (a) 硬練りに際し、練り容器の内壁もしくは底部に主材(粉体)が残ると、まま粉の原因となるので、へら等で内壁及び底部をかき混ぜた後、再度ハンドミキサーで攪拌する。
- (b) まま粉が生じた場合は、こし網等で除いてから使用すること。
- (c) 練り混ぜは、可使用時間内(1時間/20°C)に使い切る量とする。
- (2) 中塗材は、指定量の清水を加え、ハンドミキサーで均一に薄める。

(3) 上塗材は、以下(a)～(d)の点に注意して調合・混合し、使用する。

(a) 主材と硬化剤は、指定の比率で調合する。特に小分けで使用する場合は、以下の表を参考にして計量器で正確に計量を行う。

主材 (kg)	15.0	7.5	3.75	1.5
硬化剤 (kg)	0.50 (500.0g)	0.25 (250.0g)	0.125 (125.0g)	0.05 (50.0g)
清水 (kg)	0.4 ~ 0.8 (400 ~ 800g)	0.2 ~ 0.4 (200 ~ 400g)	0.1 ~ 0.2 (100 ~ 200g)	0.04 ~ 0.08 (40 ~ 80g)

(b) 硬化剤はハンドミキサー等で攪拌しながら徐々に投入し、攪拌時間を2分以上設ける。

(c) 希釈は、指定量の清水を加えてハンドミキサーで均一に攪拌する。

(d) 材料調合後は、可使時間以内(5時間/20℃)に使い切る。

尚、可使時間は温度によって大きく変わるので注意する。

7.2 主材塗り

- (1) ローラー塗り工法の場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のローラーにより塗り付ける。
- (2) 吹付け塗り工法の場合は、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定の吹付け条件により吹き付ける。

7.3 中塗り

- (1) 中塗りは、1回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に塗り付ける。

7.4 上塗り

- (1) 上塗りは、1回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に塗り付ける。

8. 材料の取り扱い

- (1) 施工者は、材料の受入れ検査を行う。
- (2) 材料の保管にあたっては、直射日光を避け低温時において凍結しないように注意する。
- (3) 材料は使用に先立ち、材料の分離などについて検査を行い、異常が認められた場合は使用してはならない。
- (4) 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート）を参照のこと。

9. 施工時の養生

- (1) 外装仕上げ面においては、塗り付け作業前に直射日光、風及び雨を防ぐためシート掛け養生を行う。特にパラペットと足場の間には雨が吹き込まないように覆いをかける。
- (2) 夏季に屋外で施工する場合は、急激な乾燥を防止するため、シート類、ポリエチレンフィルムなどで覆う。
- (3) 工事中は、周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう適切な養生を行う。

10. 施工時の気象条件

- (1) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがあるので、施工を避ける。
- (2) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避ける。

11. その他の注意事項

- (1) 一般事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」令和4年版第4章 外壁改修工事の4.1.3 施工一般及び4.5.3 施工一般に準ずる。
- (2) 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないように注意する。
- (3) 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがある。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行うこと。

※本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにしてください。

成分表

主 材：リカバリー

[基材]	内 容	重 量 (%)
	アクリル樹脂エマルジョン	22.9
	水	11.4
	添加剤	4.9
	骨材	60.8
	計	100.0

[硬化剤]

	内 容	重 量 (%)
	無機質結合材	98.5
	添加剤	1.5
	計	100.0

中塗材：水系ファインコートフッ素 中塗 BMB

	内 容	重 量 (%)
	アクリルシリコーン樹脂エマルジョン	65.0
	白色顔料	16.2
	水	8.3
	添加剤	10.5
	着色顔料	適宜
	計	100.0

上塗材：水系ファインコートフッ素DX BMB 主材

内 容	重 量 (%)
フッ素含有無機有機ハイブリッドエマルジョン	68.5
白色顔料	15.9
水	3.8
添加剤	11.8
着色顔料	適宜
計	100.0

：水系ファインコートフッ素DX BMB 硬化剤

内 容	重 量 (%)
シリコーン変性エポキシ化合物	88.0
添加剤	12.0
計	100.0

—以下余白—

性能試験成績書

仕上げの種類	可とう形ポリマーセメント系改修用仕上塗材 (可とう形改修塗材CE)仕上げ		
製品名	リカバリー		
供試材料	主 材：リカバリー 中塗材：水系ファインコートフッ素 中塗 BMB 上塗材：水系ファインコートフッ素DX BMB		
試験方法	JIS A 6909-2021 可とう形改修塗材CEに準拠		
試験項目	規 定	結 果	
低温安定性	塊がなく組成物の分離・凝集がない。	合格	
軟度変化 B法	-15~15 %	-3.1	
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	ひび割れない。	合格	
付着強さ (N/mm ²)	標準状態	0.5以上	0.8
	浸水後	0.5以上	0.7
温冷繰返し	試験体の表面に、ひび割れ、剥がれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がない。	合格	
透水性B法(ml)	0.5以下	0.1	
耐衝撃性	ひび割れ、著しい変形及び剥がれがない。	合格	
ひび割れ充てん性	基板の溝の部分に、塗膜のひび割れ及び穴がない。	合格	
耐候性A法	ひび割れ及びはがれがなく、変色の程度がグレースケール3号以上とする。	合格	
可とう性	ひび割れが生じないこと。	合格	
耐候性B法 (耐候形1種)	照射時間2500時間で、塗膜にひび割れ、剥がれ及び膨れがなく、光沢保持率は80%以上で、変色の程度がグレースケール3号以上であり、白亜化の等級が1以下とする。	合格	
—以下余白—			

* 上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承下さい。